

モデル事業名	1社1村交流による持続可能な地域づくりモデルの構築 ～企業と農村の戦略的互惠関係の構築による地域維持のあり方検証～
活動団体名	松平村塾（島根県 江津市 松平地区） 松平ラボ（島根大学 教育学部 人文地理学研究室 サテライト・ラボラトリー）
ホームページ	http://matuhira.ikidane.com/
所属／ 担当者名	松平村塾 佐々木 英夫
連絡先	0855-57-0680 megumi52@ruby.plala.or.jp
活動地域	島根県 江津市 松平地区（松川町・川平町を併せた地域の呼称）

## ● 活動地域の概要

### 1、対象地域の位置と現状

松平地区は一級河川江の川が日本海に注ぐ河口から約3～15km上流に位置し、川と並走するR261を挟んで東側が松川町、西側が川平町である。江の川沿いの豊かな自然と周辺の山地に囲まれた広範な地域で、面積は市域の約4分の1を占める一方、S30年には3,600人であった人口は現在970人（江津市人口比3.6%）で、高齢化率は45.3%に及び、消滅集落の発生などコミュニティの存続が困難となりつつある地域である。



▲島根県江津市の位置



▲無住化した集落

### 4、空き家の発生状況（出典：島根大学人文地理学研究室）

地区	空き家数	居住宅数	合計	空き家率
川平町	38	128	166	22.9%
松川町	75	320	395	19.0%
合計	113	448	561	20.1%

→5軒に1軒の割合で空き家が発生

※2006年度江津市との共同研究より

### 2、集落の数及び高齢化率

◆松川地区7集落、高齢化率42.8% ◆川平地区2集落、高齢化率52.7%

### 3、集落毎の人口や世帯数

◆松川地区＝326世帯（725人） ◆川平地区＝128世帯（245人）

## ● 活動地域の課題

H19年11月に松平村塾では、空き家か両親が地域内に残る県外転出者21人の地域ニーズを探るためのアンケート調査を実施した。その結果、耕作放棄地や家の周りの管理、墓掃除を望む声が多かった。一方で、地域内でシルバー人材の登録を行った結果、草刈りや釣り、農業、子育て送迎、パソコンなどの人材登録があった。課題や人材を抽出したが、抽出した課題を「誰が」「どのように対応」していくのかという「対策」が未整理の状態であり、実際の活動へとつながっていない。

そこで、松平ラボをシンクタンクとして、多様な視点から地域課題を再抽出・分析し、その具体的な対応策を「地域マネジメント・ビジョン」としてまとめ、中長期にわたる地域づくり・地域維持のあり方を明確にする作業が必要である。

## ● 活動の内容（平成21年度）

### 活動1：1社1村交流（企業の社員が農作業に参加するCSRと自然体験交流）

内容：企業の社員を高齢者が維持する農地の農作業へ参加させることで、集落に増え続ける「遊休農地」解消の可能性を探るとともに、農村を企業が支える仕組みを検討していく。一方で、松平地域が提供できる川エビとり・炭焼き・神楽などの農山村体験や、豊かな山・川・里の幸の提供など、地域と企業の双方がwin-winとなるような仕組み（交流）づくりに取り組む。

### 活動2：地域マネジメント戦略会議（月1回程度）と地域マネジメント・ビジョン作成

内容：松平ラボをシンクタンクとして、①意識・実態調査（アンケートやヒアリング）の実施、②戦略会議やワークショップ（村塾、ラボ、自治会、市職員など）の開催、③地域マネジメント・ビジョンの策定を行う。

### 活動3：「村を消すな！」明日へ繋がる地域づくりセミナーの開催（5回）

内容：松平村塾のコアメンバーや危機感を持った地域の若者、企業の社員を中心に、地域マネジメントにかかる考え方や手法などを継続的に学習することのできるセミナーを開催し、地域の担い手人材を育成する。

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

交流事業やイベント、または地域づくりに付随してくる話し合いの場などを継続的に運営していくための仕組み作りが今後の課題である。1社1村交流で築いた地域と企業との新たな関係や地域づくりセミナー等で得た知識、月1度の戦略会議や地域マネジメント・ビジョンを生かすための戦略的かつ恒常的な仕組みが必要である。そのためには、この1年をきちんと振り返り、今後に生かす努力が不可欠である。

また、地元住民をできるだけ地域づくりに巻き込む仕掛けが必要不可欠であり、そのためにはプロジェクトを形作る事務局の人材が必要である。本事業で人材不足の再認識をした。

最後に、「活動」を採算ベースに乗せることのできる「事業」にする必要がある。やはり持続可能な地域づくりを行う上で必要なのは、活動資金であり、それらを確実に確保する仕組みも最重要課題である。

### ・展望

本事業の運営開始と同時期に、松平ラボという島根大学教育学部人文地理学研究室の分室が開所し、地域のシンクタンクとして機能し始めた。また、ラボのスタッフの一人が島根大学を休学し地域に常駐している。彼がラボの業務を行う傍ら、松平村塾の事務局の手伝いを行っている。さらに、人文地理学研究室のゼミ生が松平地区を研究対象に地域に頻繁に入り込んでいる。このように、人が人を呼び地域に新しい風がどんどん入ってきているのが現況である。また、交流をきっかけに、地元の士気や活力が盛り上がってきた。

今後は、そうした外からの風と内に存在する地域資源を利用した持続可能な地域づくりモデルを確立していく。過疎高齢化が約50年前から進む江津市松平地区ではあるが、先進的な地域維持のあり方を常に模索し、全国に発信し続けることが今後の課題であり展望である。